

2022年度 学校評価 (自己評価目標・取組内容)

麻布大学附属高等学校

校訓	誠実・協調・博愛・奉仕	教育理念	夢を語り、学問を追究・実践し、誠実なる校風の基、平和社会の建設に貢献する。	達成度 (達成状況に応じた評価記号を記入する。)
教育目標	1. 個性を伸ばし、生徒一人ひとりの進路に応じた確かな学力の定着 2. 基本的な生活習慣(あいさつ・時間厳守・マナーやルールの尊重)を育み、国際化の社会に対応できる能力(情報発信力、コミュニケーション力・プレゼンテーション力等を総合的に備えた能力)の育成 3. 自ら課題を見つけ、自ら考え解決をめざす能力の養成 4. 多様な価値観を認め合い、他者を思いやる心の育成 5. あらゆる生命や自然環境を尊重する精神の涵養			「S」評価の観点を上回って実施できている。 「A」評価の観点を十分に実施できている。 「B」評価の観点を十分には実施できていない。 「C」評価の観点を実施できていない。

校内評価(自己評価)					
評価項目	重点目標	具体的方策	達成状況	達成度	次年度の課題・改善方策
学力の向上・授業改善	教育における質の向上および英語力の醸成	教員の授業評価、保護者への授業公開及び教員相互授業参観等の研修を通して、生徒の学力を育成するための授業改善を図る。授業全体の質の向上の為、校外研修を積極的に紹介する。また校内においても研修の実践を図る。	授業公開は予想を上回る参加数だった。ICT機材の導入や使用の研究も進んだ。	A	コロナウイルスに対する世情の変化に合わせ、より積極的に公開を推進する。
	ICT教育の推進	授業での面でのICT機材活用を推進する。教員向けに、教務部所有のノートPCおよびタブレット端末を積極的に開放し、さまざまな使用方法を試しながら有効な実践例を集積していく。	電子黒板「ミライタッチ」の導入により、より効率性の高い授業の展開が可能になった。	S	新型黒板の利用知見を集めることに注力する一方、時代に即応できるよう、他の最新機材の情報も得ていきたい。
	補習授業及び教育セミナーの充実	夏期集中講座・一般入試直前講座・指名学習等の主要5教科を中心とした補習授業を企画し、生徒の向上心や競争心を喚起し、主体的な学力向上に繋げる。	対面制限が徐々に緩和されたが、オンラインの特性も併せた方法を検討、実行できた。	A	今まで蓄積されたオンラインコンテンツを有効に活用し、生徒に還元する方法を検討していく。
進路指導・キャリア教育	進路意識の向上	進路決定を促すため、職業学問適性検査並びに説明会、卒業生講演会、生徒対象進路説明会を実施し、様々な職業や社会情勢、就職状況などに目を向けさせる。	新たに「看護医療技術で国公立大を目指す会」を立ち上げ、より多くの生徒の進路意識を刺激することができた。	A	先輩たちのがんばりが後輩へ適切に伝わるよう、素晴らしい結果を出した卒業生の協力を仰ぎながら各説明会を実施していく。
	卒業生進路	生徒が自らの進路希望を叶え、自己実現に至る力を身につけるため、全国学力模試、大学説明会、一般入試出願説明会などを実施する。	これまでの取組の結果として、国公立大、早慶上理、GMARCAHなどの合格者数が大幅に増加した。	S	2024年度入試は学習指導要領の改訂で2025年度入試が変化することから安全志向になりがちのため、チャレンジすることの大切さを伝えていく。
	保護者への情報提供	生徒の進路決定に大きく影響する保護者へ向け、最新の進路情報を発信・共有し、学校と保護者が協力して進路指導に向かう体制づくりを構築する。	保護者向け説明会は全て、会場実施とYoutube配信の2本立てで実施し、より多くの保護者の方々へ情報を伝え、理解を得ることができた。	A	生徒だけでなく保護者の方々にも入試が変化することから安全志向になりがちなこと、その中でチャレンジすることの大切さを伝えていく。
生活指導・生徒支援	学校生活における基本的な生活習慣の確立	集団行動において求められる規範意識の涵養を図る。ルールを尊重することが社会においていかに大切であるかを理解させ、学校生活の中で実践させてゆく。引き続き、風紀委員会による身だしなみルールの理解を推進する。	朝・昼・放課の際の挨拶・声掛けを行い、日頃からルールを守ることを徹底させた。	A	社会における集団での過ごし方、ルール遵守の必要性について伝えていく。
	いじめ防止	いじめ防止講演(年1回)の開催、いじめアンケート調査(年2回)の実施を柱とした、いじめの未然防止及び早期発見・早期対応に取り組む。教員へもアンケートを行い、生徒の些細な異変にも気づくように連携して指導する。	“いじめ”に繋がるものはなかったが、友人同士のいざこざや行き違いについて個別に話を聞き、当事者への面談を行い解決した。	A	友人関係の距離の取り方による行き違いやふざけは常にあるため、担任および学年で細やかな対応が必要。
	リテラシーの醸成	WEBやSNSにおいて相手を傷つけないよう自制する倫理観を身につけさせる。また、自己を守るための常識や行動を紹介する。	SNSの使用方法やiPadの管理について、担任・学年から指導を行った。	A	iPad導入に伴い、その使い方の指導を継続することが必要。
学校安全衛生管理・学校運営	入学式・卒業式および始業式・修了式・離任式の企画と運営	節目となる儀式で、日頃身につけた礼儀作法を確認すると共に、学校生活における目的を共有し、前向きに自ら取り組む姿勢を養う。	いずれにおいても真摯な姿勢が見られた。特に、コロナ禍で入学式を行えなかった学年の卒業式に際し、卒業生の凛々しく成長した姿を教職員・保護者一同で祝うことができた。	A	コロナ禍後の運営について検討し進める。
	学校安全管理と防災訓練	防災における危機管理マニュアル等を整備し、防災訓練を実施する。また、教職員へ周知徹底し学校安全の意識高揚を図る。	災害時の避難について、全校で基本を確認し行動することができた。	A	授業中や休み時間等、様々な場面での想定を踏まえて、学校安全意識の高揚を図る。

校内評価（自己評価）					
評価項目	重点目標	具体的方策	達成状況	達成度	次年度の課題・改善方策
学校安全衛生管理・学校運営	後援会、同窓会活動協力	後援会、同窓会の協力を得ながら、活動を通して信頼関係を深め、円滑な学校運営を目指す。	保護者が来校する機会が増え、活発な話し合いをすることができた。	A	コロナ禍後の行事等再開に向けて検討を進める。
生徒会指導・生徒の自主自立	学校行事の企画	数々の学校行事の企画を生徒達と共に行い、主体的かつ創造的な生徒会活動の活性化をサポートする。	生徒会本部役員の自立が芽生え始めた。	A	芽生えたものにどう花を咲かせていくか。生徒と教職員での連携は不可欠。
	部活動の運営・管理	各部活動に「月間予定」を作成依頼し、活動場所の割り振り、調整・管理を行う。各部活動が活動するにあたっての予算執行を補助する。部活動指導補助員を活用し、教員負担の軽減を図る。	コロナ禍ではあったが特に大きな変更もなく実施できた。	A	コロナが5類になり活動も活発になる。今後も感染対策に意識を持ち活動できるかがポイントになる。
	芸術鑑賞	芸術鑑賞における演目を選定し、その実施に向けて企画運営を行う。生徒達が日常で見る機会が少ないものを提供し、価値観の多様化を育成する。	演目選定も順調にいき生徒も楽しめた模様。	A	11月開催から6月開催に変更。今後もこのスケジュールで行くか課題は残る。
入試広報・生徒募集	安定的で質の高い生徒の確保	学則定員258名を意識しつつ、安定的な学校経営が可能となるよう、適正な内申基準の設定、効果的な入試制度を模索する。	269名の入学者となり、5年ぶりに適正範囲の入学者数となった。	A	学園からは300名程度の確保を要求されていることから、2024年度入試における内申基準の設定においては、目標を達成できるよう注力したい。
	広報活動の効果的かつ適正な運用	中学生保護者に対する説明が、教員によって個人差が生じないよう、マニュアルの徹底を図り、説明資料の統一と共有化を図る。教員や生徒の振る舞いによって、本校の印象が大きく左右されることを学校全体で自覚し、来場者に対する丁寧な対応を徹底する。HP等による学校情報や説明会のイベント情報を迅速に発信する。	マニュアルの更新や所作の徹底など、学校としての対応力がついてきた実感がある。一方、コロナ禍で生徒を活用できていないため、広報イベントの発信力には限界があった。	B	2023年度は、コロナ禍以前の形に戻し、生徒も大いに活用して本校の魅力を発信することに注力したい。